

授業概要

この授業では、おもに社会思想史の観点からヨーロッパの人間化・社会観の変遷を扱います。宗教と政治の関係、欲望と理性の関係、近代社会が問題にしてきたことなどの考察を通して、多文化が否応なく共存せざるをえないヨーロッパの歴史が形成してきた諸理念・諸規範の意義や限界について講義します。

授業計画

| | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス：西洋思想の特徴、授業の進め方、評価方法、注意事項などの説明 |
| 第2回 | 人間観と社会観のつながり①ギリシア神話（「イリアス」）を例に |
| 第3回 | 人間観と社会観のつながり②ギリシア悲劇（「オイディプス」）を例に |
| 第4回 | 古代ギリシアの社会思想：人間本性と社会制度 |
| 第5回 | 中世キリスト教：キリスト教の基本思想 |
| 第6回 | 古代・中世のまとめと補足：近代への影響 |
| 第7回 | 中世から近代へ：欲望の否定から欲望の肯定へ |
| 第8回 | 近代の自然法思想①ホブズ、欲望の追求と国家権力の役割 |
| 第9回 | 近代の自然法思想②ロック、所有権の重視と国家権力の正当性 |
| 第10回 | 理性への信頼①「進歩」という思想 |
| 第11回 | 理性への信頼②ヘーゲル、自由の対立から自由の共存へ |
| 第12回 | 功利主義：社会制度の合理性・客観性の追求 |
| 第13回 | 近代合理主義への批判：ニーチェ、マルクス |
| 第14回 | 道具的理性からコミュニケーション的理性 |
| 第15回 | 近代思想のまとめと現代思想の展望 |
| 第16回 | 期末試験（筆記試験） |

到達目標

- ①人間観・社会観の変遷と多様性を理解すること
- ②地域・時代の異なる思想や文化を異文化として理解し、自分化や自分の考えを相対化する視点を養うこと

履修上の注意

予備知識は不用ですが、異なる思想・文化を理解するには、想像力と集中力が必要です。したがって授業中は日常生活を遮断し、授業内容に集中することを求めます。

予習・復習

授業前に、前回のレジュメに目を通しておいてください。とくに指示した場合を除き、予習は求めません。講義で興味を持った事項や参考文献にあたって、理解を深め関心を広げることを望みます。

評価方法

定期試験（筆記試験）70パーセント、受講態度（上記「履修上の注意」参照）および授業時のリアクションペーパー30パーセント。

テキスト

特定のテキストは使用しない。授業時にレジュメを配布する。参考文献は授業の進行と学生の関心に合わせて適宜紹介する。